

Product Liability NEWS

PL 対策

検索



17号

3 Jul.2023



【発行元】

一般社団法人 PL対策推進協議会 (略称: APL)
〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町 35-28
TEL : 050-6865-5180 FAX : 022-247-8042
E-mail: c-japan@pl-taisaku.org



安全点検アプリの参加型ワークショップが始まりました。 大阪・関西万博 製品の安全安心PJ



超スマート社会だからこそ原点に戻る！

この協議会が普及を行っている安全点検アプリも基礎研究として流通小売のグローバル標準化機関 GS1 を日本通信販売協会の元理事に教えていただき、GS1QR というものの存在を知りました。昔から「10年ひと昔」と言われていますが、当時のモバイルはQRコードを読むためにさまざまなアプリがアプリストアに並んでいました。今はモバイルカメラにその機能が組み込まれ、日々の生活にQRコードは当たり前になりました。

使う目的もすでに単にホームページを見るためのものではなく、用途として電子マネーから入場券など、多種多様になりました。10年前はQRコードの説明には大変苦労しましたが、今は誰でも利用しています。

「石の上にも3年」、これも正にその通りで物事が動きます。今から3年前の夏はコロナ感染で自粛、病院は大混乱、多くの方が亡くなり、感染すると重症化し医薬品もありませんでした。それまで全くパソコンすら使わなかった人が今はテレワーク、自宅からのオンライン会議、電話回線を使わない Line などのビデオ通話、何もかも変わりました。

この先3年はどうなるのでしょうか。2年後には大阪・関西万博が開催されます。6ヵ月で2,800万人の参加が見込まれ、これまでの万博とは全く違う Society5.0 の実験場として様々な商品や技術が世界から集まります。米国ではコロナパンデミックは中国からのバイオテロの試験モデルとして食品バイオテロ対策に食品トレーサビリティ

の法律 FSMA204 が今年1月に発効、3年後にはFDAから要求があったら24時間以内にその対応を求められます。昨年からさらに中国との間での安全保障として情報セキュリティについてモバイルOSの大きな変更も進んでいます。PL法の改正についても今年度のPLオンブズ会議報告会のテーマになりました。PL研究学会はEUなどの動向を調査することになり本年末に大会を行う予定です。

PL(Product Liability)法は被害者救済の消費者のために制定されたものですが、今ではPL保険が普及し弁護士費用も含めた訴訟費用、賠償金の担保が事業者側ではできています。一方日本の民事訴訟ではその制度上、被害者自身が訴訟費用から賠償請求額の1割を供託することになっており、消費者側の弁護士も少なく多くが泣き寝入りになっているようです。

流通経路が多用した中では製品の安全点検を消費者に委ねることになります。被害者を出さないことがPLの原点であり、これも今はモバイルを利用して可能になりました。当協議会の安全点検アプリも初期開発から7年経過し、より簡単に使えるよう、今年には最新のものに移行を準備しています。(渡辺吉明)



「安全点検アプリ」参加型体験ワークショップ

AFL
PLnews

2023年7月号

Let's点検！ スマートチェック！！

粹な安心生活 始めましょう

モバイルアプリ
での安全点検が
始まりました。



いますぐ知りたい！

- ・正しい使い方
- ・アレルギーや成分の詳細
- ・組み立て方やメンテナンス
- ・不具合の対応
- ・寿命やリコールの確認など
- ・メーカーとの連絡方法など



知識や道具
安全な環境
が必要です。



プロに任せるか
自分でやるか
誰でもできる方法もできました。

製品を作る側が伝えたいこと

- その製品の特徴
- 便利に正しく使うための情報
- リスクやそれを避ける方法
- 修理点検や寿命、リコールなど

安全安心な生活は「安全点検アプリ」で！

=参加型体験ワークショップ=

■開催日：7月20日（木）

■時間：13：00～16：00

■会場：板橋グリーンホール 6F

<https://www.itabashi-ci.org/greenhall/access/>

■参加費：無料

お申し込みはこちら>>



<https://forms.gle/BKXEwbAM3h29Vq2Q6>

使う側が知りたいこと

- 本体の表示ではわからないこと
- 広告で見たことはどうやればできるの？
- 目の前のものは本当に安全なの？
- 緊急時の連絡先や対応方法

一つのQRコードで可能です。

「安全点検アプリ」の最新情報！

自動認識用 QR コードを利用したこのアプリとクラウドシステムについて、TDN インターナショナル株式会社（デベロッパー）より次世代システムとして ver2.0 開発を開始、本年 11 月に更新することが発表されました。

このシステムではこれまでの GS1QR と、このアプリに依存しなくても商品コンテンツページに汎用 QR で直接アクセスできる GS1 DigitalLink、北米製の B2B 用 DataMatrix などのシンボル自動生成、ロットごとの設計図書、販売履歴など様々なデータの格納、AI 実装を前提にした機能を大幅に向上させ

scodt cloud ver2.0 2023 年 11 月リリース



GS1QR



GS1DigitalLink



GS1DataMatrix

GS1 2D シンボル

た最新のものにアップデートされる予定です。アプリではそれらのマイページ機能などを充実させ、アプリを使う側、システムを利用する側の双方に大きな利便性を提供します。特に安全点検アプリとしての機能は当システムだけのものになります。まずは上記のイベントに参加いただき無料体験してください。

本体表示の必要性

本年 5 月に「望ましい取扱説明書作成講習」を開催するに当たって、改めていろいろな製品の取説や表示を事前調査していました。食事の際にも食卓にあった商品の表示を見ていて気が付きました。K 社マヨネーズ本体の外袋を眺めていると QR コードが表示されており、試しにカメラで読み込んでみると、マヨネーズを使ったたくさんのレシピが紹介されていました。デザインも食欲をそそる美しさで、さすがに K 社のセンスと感心していますが、待てよと一つの疑問が生じました。QR コードは袋には印刷されているものの本体には何の表示もなく、キャップに賞味期限と思しき年月日が印字されているだけです。果たしてどの家庭でも本体は袋に入れて使っているのだろうかと思いました。コロナが蔓延している時期、スーパーなどで販売されている商品は多くの人に触られることが通常で、弄り回して選別している人もいます。もしかしたらコロナ菌を有する人が触っているかもしれません。

潔癖症な方であれば袋などは感染防止のため速やかに破棄される可能性が高いと考えられます。そんな時、袋に表示された QR コードで案内されるレシピは全く無意味になってしまいます。きっとレシピ担当者は日々研究しデータの更新し、より良いレシピ作成に努めているはずですが、読まれることなく破棄されれば努力も無駄に終わってしまい、意味のないコストになってしまいます。実にもったいない仕業です。本体にも QR コードを表示すれば、袋は破棄されてもいつでも



例えば QR を利用することで、小さな商品も 15mm 角程度のスペースがあれば詳しい情報を多言語でも見ることができます。

アクセスが可能で、レシピを有効に活用できるようになります。コロナ感染のリスクも無く、事業者の消費者に対するサービスが全うできるのです。

解決策があるのに活用しないのは勿体ないと感じた次第です。

本体に表示が無い商品は他にもたくさんあるようです。消費者のために一考する価値はあると思います。

なお、「望ましい取扱説明書作成講習」は、各事業者の消費者安全に対する取り組みの文化を表す取扱説明書の在り方についての講習です。今後も繰り返し開催する予定ですのでご確認ください。

(渡辺 欣洋)

取扱説明書、本体表示などのご相談承っています。

私たちが、お客様のご要望を「まるごと、しっかり」引き受ける
三条印刷の「まるしか隊」です。

80th
おかげさまで80周年

sanjo
nsatsu
三条印刷株式会社
Graphic & Media Supporting

■営業品目 / ポスター・パンフレット・チラシ・出版 (作品集・書籍・記念誌)・広告代理店 他

■新潟支店
■長岡支店
■関越営業所
■上越営業所
■高崎営業所

本社: 〒955-0072 新潟県三条市元町9番3号
TEL. (0256) 32-2281 (代) FAX. (0256) 32-2670
URL <https://sanjo-prn.co.jp>

10190801001

はじめませんか?
スプーン1杯の
健康習慣

JOAN
INTERNATIONAL
ジョアンインターナショナル
03-3903-7607

ガッティ家のオリーブオイル

検索

JOAN INTERNATIONAL

G51QR scott

大阪・関西万博に向けてイベントを開催します。

時間が経つのは早いもので、あっという間に2023年も残り半年となってしまいました。

現在、協議会では「TEAM EXPO 2025」への参加に向けた準備を進めています。その一環として、より幅広く、わかりやすく協議会の取り組みを知ってもらおうということで主に消費者の皆様に向けた体験型のイベントを開催することになりました。(p.2 参照)

それに合わせて scodt のイメージキャラクターも変更し、より「QR を見る」イメージが強くなったと個人的には感じます。scodt システムについても今後見直しを進める予定ですので、続報にご期待ください。(事務局 菅野)



GS1 2D by scodt®



メルマガ登録はこちら

https://pl-taisaku.org/?page_id=4253



PL 検定初級 5,280 円 (税込)

PL 対策・体制整備・表示などの基礎を学べます

詳しくはこちら>>

https://pl-taisaku.org/?page_id=630



これまでは国も企業も製品事故が起きてからの対応をしてきましたが、産業構造が大きく変わりこの方法では製品事故が増え続けています。このため、国は製品安全のスマート化を提唱、品質保証分野でも事故未然防止・再発防止を行えないと企業にとって大きな経営負担になっています。これまでの取り組みをどのように改善するのか、社内の体制整備、本質安全設計から販売後の中古市場まで見据えた品質保証、製造物責任、自主回収やリコールの本来あるべき姿を学んでいただけます。



最新！PL対策解説書2022
税込 5,280 円

これ一冊で、最新の PL 対策
まるわかり！

ポジティブインセンティブ規制、ポジティブリスト化する法律や基準、急速に進む流通小売の動向など、製品安全の最前線で27年に及ぶPL対策の第一人者 R&D スペシャリストが書き下ろした実務書です。皆様の業務改善、体制維持などの全てが書かれています。取扱説明書ガイドライン2022と併せて万全の最新のPL対策にお役立てください。



取扱説明書ガイドライン2022
税込 7,700 円

わかりやすく、見やすい
消費者視点の取扱説明書

産業用機械から日用品まで、消費者市場にて使われるものを対象に「取扱説明書ガイドライン 2022」を新たに出版しました。初心者でも作れるようにテンプレートもデータで配布します。モバイルの小さな画面でも、知識のない人でも分かりやすく正しい使用方法を伝え、誤使用の事故をなくすことを目的とし、当協議会では PL 検定受験を通し「なぜ取扱説明書が必要なのか、表示とはどのような関係なのか」も理解していただけるように支援を行なっています。